

# 令和3年度 市川市立大和田小学校の教育

## 【 学校教育目標 】

「夢の実現へ めあてをもって自ら学ぶ子」を育成する

— 街とともに伸びる「大和田の子」 —

人のつながり〔子ども・保護者・教職員〕、場のつながり〔地域・ブロック〕、時間のつながり〔伝統・実績・幼保小中学校〕を大切にし、知育・徳育・体育の調和のとれた子どもの育成をめざす

### めざす子どもの姿

- ・自ら学び、伝え合い、学び合って高めよう
- ・みんなと仲よく、協力し合って、楽しい学校生活を送ろう
- ・ねばり強くやりぬく身体をつくろう

### めざす教職員の姿

- ・子ども一人一人をよく理解し、個性を活かす教職員
- ・保護者の思いや願いを受け止め、信頼される教職員
- ・専門性を高め、指導力の向上を図る教職員
- ・心身とも健康で、人間性豊かな教職員

### めざす学校の姿

- ・夢のある楽しい学校
- ・質の高い教育の実現をめざす学校
- ・安全で安心して過ごせる学校
- ・地域に根ざした開かれた学校

## 【 経営重点 】

### 重点目標

### つながりと調和

— 確かな学力を育てる —

- ・自学力の育成
- ・基礎・基本の習得と活用力の育成
- ・個に応じたきめ細かな指導の充実
- ・言語活動の充実
- ・生徒指導の機能を活かした授業の推進
- ・校内研究の推進、課題研修の充実
- ・ICTを活用した学習の推進

— 豊かな心を育てる —

- ・道徳教育、人権教育、命を大切にする意識を育む教育活動の充実
- ・あいさつができる子どもの育成
- ・学校生活におけるマナー・ルールの育成
- ・特別支援教育推進体制の確立
- ・読書活動の充実

— 健やかな体を育てる —

- ・日常の体力づくりの推進
- ・生活リズムの確立
- ・学校給食と食育指導の充実
- ・安全、環境衛生の整備
- ・健康教育の推進

— 信頼される開かれた学校づくりを進める —

- ・安全、安心の学校づくり
- ・積極的な情報提供と学校公開
- ・学校評価を基としたPDCAサイクルの確立
- ・学校運営協議会を核とした保護者、地域の方々との連携

— 協働する学校づくりを進める —

- ・支え合うチームワーク、組織力
- ・学校事務の効率化、デジタル化
- ・校務支援システムの推進

## 経営重点の具体的な方針

### — 確かな学力を育てる —

- ① 自学力の育成
  - ・日々の授業をとおして、子ども達がめあてをもって、自ら主体的に学び続ける力を育む
  - ・宿題、音読、家読（うちどく）、ジャストドリル等を活用し、家庭学習の習慣化を図る
- ② 基礎・基本の習得と活用力の育成
  - ・本校における学力テスト等の結果を分析し、子どもの実態に基づいた重点的な指導を進める
  - ・漢字の読み書きや計算等、基礎的な知識・技能の確実な定着を図る
  - ・活用力を身につけるために、ノート指導を着実に積み上げるとともに、説明・論述・討論等の学習活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を育む授業づくりを行う
- ③ 個に応じたきめ細かな指導の充実
  - ・各教科において、少人数指導やT T指導について充実を図る
- ④ 言語活動の充実
  - ・校内研究を基軸に、これまで取り組んできた「話す活動」、「聞く活動」、「話し合う活動」、「書く活動」から「伝え合う力」の一層の育成を図る
- ⑤ 生徒指導の機能を活かした授業の推進
  - ・日常の授業の中で、「自己存在感」を与える授業、「自己決定の場」のある授業、「共感的な人間関係」を育てる授業を目指す
  - ・授業の中で、学習規律やマナーの向上や心の育成を図る
- ⑥ 校内研究の推進、課題研修の充実
  - ・授業研究を中心とした校内研究を推進し、教員の指導力の向上を図る
  - ・国語科の授業研究で年間一人1授業研究、経験年数6年未満教員一人1授業研究を行う
  - ・子どもの問題行動、特別支援教育、ユニバーサルデザインの視点等学校の課題や教育の今日的な課題について研修を深める
- ⑦ ICTを活用した学習の推進
  - ・コンピュータ、タブレットやインターネット等ICT機器を活用し、児童の学習への興味関心を高める
  - ・情報モラル学習を推進する

### — 豊かな心を育てる —

- ① 道徳教育、人権教育、命を大切にすること意識を育む教育活動の充実
  - ・いじめ、暴力行為、児童虐待等の早期発見、早期対応に努めるとともに、関係機関との連携を図りながら根絶に向けた取り組みを進める 生活アンケートの実施〔6月・12月〕
  - ・児童の内面に根ざした道徳性の育成を図るとともに、心に響く道徳授業の充実に努める
  - ・人権週間を設定〔12月〕  
全校朝会での呼びかけ、標語づくり等
- ② あいさつができる子の育成
  - ・日常的なあいさつが自分からできるようにするとともに、八中ブロック各校との連携を図り、登下校を中心としたあいさつ運動を推進する〔職員によるあいさつ声掛け、保護者によるふれあい登校、代表委員会による取り組み、八中ブロックのあいさつ強化週間 11～12月〕

- ③ 学校生活におけるマナー・ルールの育成
  - ・基本的な生活習慣、学習ルールの定着、きまりを守るなどの指導は、家庭・地域・八中ブロックと連携し、継続的に力を入れて取り組み、定着を図る
- ④ 特別支援教育推進体制の確立
  - ・通常学級における障がいを持つ子どもや特に配慮を要する子どもについての共通理解を図り、全校体制を整える
  - ・保護者の希望による申し出を受け、「市川スマイルプラン」の整備を図る
  - ・専門機関、アドバイザーとの連携を図り、指導や助言をもとに子どもへの指導の改善や研修会の充実を図る
- ⑤ 読書活動の充実
  - ・朝読書の時間を日課に位置付けるとともに、読書月間、読書集会、ボランティアサークルによる読み聞かせの充実を図り、読書好きの子どもを育てる
  - ・学校図書館資料を活用した調べ学習や表現学習を推進する

## — 健やかな体を育てる —

- ① 日常の体力づくりを進める
  - ・新体力テストなどで実態を把握し、日常体育の充実を図る。
  - ・外遊びを奨励することによって、遊びを通して体力づくりを進める
  - ・「遊・友スポーツランキングちば」へ参加するなど、めあてを持って取り組む
  - ・体力向上に向け、体育委員会の取り組みを充実する
  - ・専門家による指導や保健体育課主催事業等、運動への関心を高める取り組みを検討する
- ② 生活リズムの確立
  - ・子どもが自らの生活を見直し、改善していこうとする態度を育てるとともに、家庭への啓発活動を進める
- ③ 学校給食と食育指導の充実
  - ・食物アレルギーへの対応について全職員で周知徹底を図る
  - ・食材の衛生管理の徹底と適切な調理法、地産地消・季節感のある献立の工夫等を行い、安全でおいしい給食の提供に努める
  - ・残菜が少なくなるように食育の充実にも努める
- ④ 安全、環境衛生の整備
  - ・安全点検、安全な遊具の使い方の徹底、危険予知及び回避能力の育成等けがの防止に努める
- ⑤ 健康教育の推進
  - ・心身の健康を自ら保持増進するために必要な能力・態度を育成する  
〔手洗いの徹底や密接な交流をさけるなど、日常生活での感染予防の実践と習慣化を図る〕

## — 信頼される開かれた学校づくりを進める —

- ① 安全・安心の学校づくり
  - ・通学路防災マップをもとに、安全教育における効果的な活用方法を検討する
  - ・小学校区防災拠点協議会に参加し、地域防災における学校の役割を明確にし、地域との協力的体制づくりをする。又、避難・引渡し訓練や安全点検、安全教育等の更なる改善を図っていく

- ・ 門扉のオートロック化、防犯カメラによる監視等、セキュリティには万全を図っていく
  - ・ 登校時の教職員による交通安全指導、保護者によるあいさつ声かけ、下校時の教職員によるパトロール、保護者、地域の方々によるパトロールを継続して実施し、子どもの安全確保を図る
- ② 積極的な情報提供と学校公開
- ・ 各種たより、ホームページ等の内容の充実を図り、学校教育への理解を深める
  - ・ 学習参観、オープンスクールの推進を図る
  - ・ 全校一斉メール配信システム、ホームページ等を活用し、情報配信のデジタル化に努めるとともに、緊急時における迅速な連絡体制を確立する
- ③ 学校評価を基としたPDCAサイクルの確立
- ・ 学校評価については、教職員自己評価、保護者学校生活アンケートの評価項目を基本的に継続し、いちかわ学校三ヵ年計画をふまえた修正を加えて、その結果の推移を見ながら学校改善に活かす
- ④ 学校運営協議会を核とした保護者、地域の方々との連携
- ・ 学校運営協議会においては、授業参観、教職員への聞き取り、児童との交流等を実施し、学校の現状を把握したうえでご示唆、ご意見をいただくとともに、学校運営への参画を促す
  - ・ 懇談会、個人面談、連絡帳、電話連絡等を通して、保護者の要望や意見には耳をかたむけ、誠実に迅速に組織で対応する（報連相）

## — 協働する学校づくりを進める —

- ① 支え合うチームワーク、組織力
- ② 学校事務の効率化、デジタル化
- ③ 校務支援システムの推進